

Q & A 質問コーナー



【運動の趣旨等について】

Q 必ず取り組まなければならないのですか。

A

この「にいがたスクールエコ運動」は、児童生徒が地球にやさしい行動に主体的に取り組む、資源やエネルギーを守ろうという活動です。

新潟県では、21世紀最初の10年間に特に取り組むべき県民課題の一つとして、地球にやさしい循環型社会づくりを掲げ、子どもたちや県民のみなさんとともに、「資源再生・ごみ半減戦略」の取組を展開してきました。

「にいがたスクールエコ運動」は、その一環として、新潟県教育委員会が取り組んでいる運動です。平成14年度から始めたこの運動は、各学校の主体的な取組により、平成17年度には、県内すべての小学校、中学校、特別支援学校、中等教育学校で実施されました。

県の事業としての運動は、平成17年度で終了しましたが、各学校での「にいがたエコスクール運動」は継続しています。したがって、各学校でもこの運動の趣旨等を理解し、これまで同様に積極的に取り組んでいただくことを期待しています。

Q 取り組んだ結果、電力や水の使用量、ごみの量が減りません。それでも、よいのですか。

A

大切なのは結果より、まず取り組むことです！

使用量が減る、減らないは取組の結果です。大切なのは、活動を通して、省エネや省資源の取組が大切であることを理解し、環境にやさしいライフスタイルを身につけていくことです。「ついうっかり」「これくらいいいや」などと思わずに、まず自分たちにできることを実行しようとする行動力が大切です。

Q 電力や水の使用量が減らなくてもいいというのでは、真剣な取組にならないのではないですか。

A

自分たちで現^{げんじょう}状をチェックし、毎日の学校生活を見つめましょう。いろいろなアイデアを出して計画・立案し、実行していく取組を大切にしましょう。その結果をよく見て、なぜそのような結果になったのかをよく考えましょう。さらに、どんなことが問題かについて話し合い、取組を繰り返していくことが大切です。

また、取り組み始めてから時間がたつと誰でも「ついうっかり」が多くなるものです。例えば、係の人の呼びかけで、毎日各クラスで生活を見つめる機会をもつ、チェック表に記録するといったこまめな手だてをはじめ、大勢の人に協力を呼びかける、状況を知らせる、タイミングよく話し合いを行う、先生方や職員の方にも協力をお願いし、組織^{そしき}的に行うといった手だて^{こうか}が効果を高めるポイントです。

Q がまんするような活動に感じますが。

A

生活の中でむだをなくし、地球にやさしい生活スタイルを身につけることがねらいです。必要なのがまんしたり、使わないというようなことをしてはいけません。

例えば、くもりの日で部屋の照^{しょうめい}明がないと本の文字などが見にくい場合、照^{しょうめい}明をつけ、活動にふさわしい環境を整えることが必要です。学校でのさまざまな活動をしていく上で使う必要があるときには、しっかり使いましょう。どのような場合に必要なのかについて学んでいくことも一つの学習です。